

## 学校再開

ここ数日は日中の最高気温が25度を超える日もあり、温かい雨の翌日は、空気が澄んで街が明るく見えます。

学校が再開した6月。もちろんコロナの影響はまだまだありますし、「アフター・コロナ」にかわって、最近よく耳にするのは、「ウィズ・コロナ」という言葉。



マスク着用は前提。部活動なども、まだフルスペックとはいきませんが、甲子園の話題や檜山中体連の球技交流会の計画が流れてきて、明るい気持ちにさせられているのも事実です。

街中に子どもたちの姿が見られ、友だちと一緒に歩く声が聞こえることが、とてもうれしく感じる今日この頃です。だからこそ、今一度気を引き締めて、予防・予防！。そして、万が一に備えての準備・準備。

リモートや ZOOM テレビ会議。実際に経験してみると、周りの空気感が分からなくて、やっぱり一堂に会した会議っていいよなと思います。でも、ICT 化は間違いなく進みます。今金町の子どもたちにも入ってきます。国の GIGA スクール構想も受けて、これからの学習環境はこの一・二年で大きく変わっていくでしょう。

そんな授業のイメージがしやすいのは、この町が進めるスマート農業のシステムがあるからです。子どもたちの将来に向けての教育改革。楽しみです。

学校は授業が命。それは変わらないけれど。



## 教育委員会事務所

近頃よく、事務所から笑い声が聞こえます。時には朝、始業前から…。幸せだなあと感じる瞬間です。

役場玄関から階段を上って3階に教育委員会事務所があります。階段を上ってすぐが私のいる教育長室。その奥が事務所です。普通は逆かなという気もするのですが、聞けば昔は教育長室が事務所だったそうで。狭かったらなあ。

事務所に入るとすぐ、受付の位置にいる女性職員が笑顔で対応してくれます。彼女たちのいる机の島が社会教育グループです。大きく文化面、スポーツ面と分かれて専門性を発揮してくれています。このグループには学芸員（考古学のプロ）でもあるグループ主幹が1名、社会教育主事が運転技術員でもある係長やスポーツアドバイザー含め4名、絵本セラピストの社会教育指導員、役場のことを熟知しており、器用で大工仕事まで得意な参事、カナダ人で料理が趣味の国際交流推進アドバイザーがいます。

事務所に入って真っ正面が元校長の指導主事（発達支援センター長）です。右奥に進むと教育委員会事務局長（給食センター長）。サッカー選手です。その奥が社教主事でもある事務局次長（給食センター次長）です。こちらは柔道家。

さらに進むと学校教育グループの島。今金町は子どもに関することは教育委員会というワンストップ行政を行っており、このグループには保健福祉のスペシャリストでもあるグループ主幹やナース資格を持つ健康教育アドバイザーがいます。学童保育所長でもあり、運転技術員もこなす係長、柔道家で神職でもある学校教育担当・そして若手の幼児教育担当が各1名。主にスクールバスを担当するプロの運転技術員がいます。

他に事務所に籍をもち、各学校・保育所に出向した形になっている保育士が2名、特別支援教育支援員が4名、ICT支援員が1名います。

役場から離れた施設としてあるのが学校給食センター、総合体育館、子ども発達支援センター、町民センター図書室、ピリカ旧石器文化館に学童保育所、種川へき地保育所。

学校給食センターには、ペンネームももつ詩人の主幹、フットワークの素晴らしい栄養士、栄養教諭（籍は今金小）が各1名。調理員が6名。野球審判資格をもつ運転技術員が1名います。

新型コロナによる臨時休業期間には、調理員さんたちが布マスクやぞうきんを作って、役場や学校にプレゼントしてくれました。料理が得意な方って手先も器用なんだと実感。ただただ感謝です。

文字数が多くなりました。他の施設の紹介はまた次にしたいと思います。



## いじめ・不登校ゼロ

学校で大事なものは、子どもをどう明るく元気に帰すかということです。家に帰った子どもを、教師はもうフォローできないですから。

よく「朝から指導（説教）されると一日中沈んで…」という言葉を聞きます。でも、会っていれば、下校までの時間にたっぷりフォローできるのです。だから、帰りの会はスパッと気持ちよく終わらせたい。そう考えて教員生活を送ってきました。

私は担任時代、決して帰りの会に反省の時間、場面を設定してきませんでした。連絡や確認が主。短い時間で元気に教室から出してあげる。そのぶん、朝から子どもたちを叱ったこともあります（何度もないと思うんだけど…。それは教え子に聞かないと分かりません(^\_^;)）。だって授業中や休み時間にいくらでも話して、フォローして、明るい気持ちにできるのですから。

もっとも私は、あまり反省とか評価が得手でないのかもしれませんが。PDCAは必須、重要です。ただ、相当練り込んだPlanであればCheckにかかる大幅な時間は必要とされないだろうなと考えてやってきました。甘いかもしれませんが。



教育行政執行方針にこんな文言を入れました。

「子どもたちが毎朝、友だちのいる学校に行くことが楽しみで目覚める日々を迎えられるよう」

学校にしろ、職場にしろ、『通いたい・通わせたい・働きたい』ところでありたい。それが、みんな幸せになれる道じゃないかな。そう思っています。